

船舶事故調査報告書

令和5年5月17日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故種類	転覆
発生日時	令和4年9月25日 09時10分ごろ
発生場所	長崎県長崎市三重式見港南西方沖 能瀬灯標から真方位230° 1.3海里付近 (概位 北緯32°47.4′ 東経129°42.6′)
事故の概要	プレジャーボート武丸は、漂泊中、転覆した。
事故調査の経過	令和4年9月27日、主管調査官（長崎事務所）を指名 原因関係者から意見聴取手続実施済
事実情報	
船種船名、総トン数	プレジャーボート 武丸、5トン未満（長さ4.65m）
船舶番号、船舶所有者等	290-16692長崎、個人所有
乗組員等に関する情報	船長、一級小型・特殊
負傷者	なし
損傷	船外機等に濡損
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 北東、風力 1、視界 良好 海象：海上 平穏、潮汐 下げ潮の初期
事故の経過	<p>本船は、船長が1人で乗り組み、知人2人を乗せ、乗船者全員が救命胴衣を着用して三重式見港の係留場所を出航し、同港港口の南西方沖で船外機を停止後、南西方に向いた船首部からパラシュート型シーアンカーを投入し、漂泊して釣りを開始した。</p> <p>船長は、当日は日曜日で海上も凧いでおり、三重式見港に出入りする船舶が多かったため、付近を航行する他船を認めた場合、同船舶の航走波を舷側に受けて船体が大きく横揺れしないように、すぐに船外機を始動して船首を航走波に立てようと考え、自身は釣りを行わずに目視で周囲の見張りを行っていた。</p> <p>船長は、釣りを開始してすぐに釣り竿のリールの水深計で漂泊場所の水深が期待していた深さよりも浅いことが分かったので、釣り場を移動することとし、船首部でシーアンカーを手繰って引き揚げ、折り畳んでいたところ、南西進する小型船舶（以下「本件船舶」という。）が左舷方約100mを通過し、本件船舶の航走波が迫ってくるのを認めた。</p> <p>船長は、船外機を始動して船首を航走波に立てようと思い、同乗者に竿を上げて船体に掴まるように指示しながら、急いで船尾部に移動し、船外機のスターターロープを引いたが、直後、航走波を船尾部に受け、同部のトランサム（船外機の取付部）を越えて海水が船内に流入するのを認めた。</p> <p>船長は、人力で排水を開始したが、航走波を何度もトランサムに受</p>

	<p>け、大量の海水が船内に流入して船体が沈下し、舷側の甲板排水口からも海水が船内に流入するようになったので、排水を断念し、知人に携帯電話で海上保安庁に通報を行わせていたところ、本船が左舷側に傾いて転覆し、知人2人と共に海に投げ出された。</p> <p>船長は、知人2人を本船に掴まらせ、自身は本船の船底に上がって付近にいたプレジャーボートに大声で助けを求め、来援した同ボートに知人2人と共に救助され、三重式見港に戻った。</p> <p>本船は、来援した巡視艇により三重式見港にえい航された。</p> <p>船長は、本事故当時、シーアンカーの揚収作業に意識を向けていたので、本件船舶に気付くのが遅れたと本事故後に思った。</p> <p>本船は、乾舷が最も小さい船尾部のトランサムで約30cmであった。</p>
<p>分析</p>	<p>本船は、港口付近で漂流中、船長が、パラシュート型シーアンカーの揚収作業に意識を向けていたことから、本件船舶に気付くのが遅れ、左舷方を通過した本件船舶の航走波に船首を向けることができないまま、連続して受けた航走波が船尾部のトランサムを越え、大量の海水が船内に流入し、左舷側に傾いて転覆したものと考えられる。</p> <p>本船は、乾舷が船尾部のトランサムで約30cmであった中、船舶の往来が多い港口付近で漂流していたが、同状況では、他船の航走波を受けて船尾部から海水が船内に流入する可能性が高かったものと考えられる。</p>
<p>原因</p>	<p>本事故は、本船が港口付近で漂流中、船長が、パラシュート型シーアンカーの揚収作業に意識を向けていたため、本件船舶に気付くのが遅れ、本件船舶の航走波に船首を向けることができないまま、連続して受けた航走波が船尾部のトランサムを越え、大量の海水が船内に流入し、左舷側に傾いて転覆したものと考えられる。</p>
<p>再発防止策</p>	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 乾舷が低く、他船の航走波の影響を受けやすい小型船舶の船長は、漂流中、パラシュート型シーアンカーの揚収等の作業を行う場合、付近を航行する他船に気付くのが遅れることがないように、周囲の見張りを行いながら作業を行うこと。 ・ 乾舷が低い小型船舶の船長は、他船の航走波の影響を受けやすいことに留意し、港口付近などの船舶の往来が多い海域で漂流しないことが望ましい。